

2021 / 秋 / No.115

5 月

来ぶらり

異世界 読書案内

今はおうち時間が多く、行動範囲も狭くなりがち。そんな今だからこそ、本を通して「異世界」に行ってみませんか。現実の異世界、架空の異世界、歴史の異世界…。見たことのないたくさんの世界が、図書館の本棚で貴方を待っています。

『生命の星の 条件を探る』

阿部豊著 文藝春秋
大学図・開架
445A/A12s

昨年末、小惑星探査機「はやぶさ2」によるサンプル到着がニュースになりました。今後の研究に関するニュースをより感動し、理解する準備はいかがですか？探査機に関わる人々の苦闘が淡々と描かれる章では手に汗を握り、太陽系の誕生と生命誕生の秘密の世界を覗くうちに心躍ります。

宇宙の異世界

『Cosmos』上・下2巻

カール・セーガン著、木村繁訳
朝日新聞出版
大学図・開架 440.4A/Sa5C/1~2



伝説・伝承の異世界



洋泉社
大学図・開架
721.2A/H99h

『百鬼夜行と魑魅魍魎：
絵巻物に描かれた「闇」に蠢く妖怪たち』

『画図百鬼夜行』 鳥山石燕画 国書刊行会
大学図・書庫 721/320

室町時代くらいから現代まで、様々に描かれてきた「百鬼夜行」。実際に遭遇したら死んでしまうと恐れられていた割に(?)、描かれた妖怪たちはなんだか生き生き、意外とコミカルなものが多いのです。有名な鳥山石燕による百鬼夜行を詳しく解説した書も必見。

『流刑の神々・精霊物語』

ハインリヒ・ハイネ著、小沢俊夫訳 岩波書店
大学図・書庫 081.2/33D/1360

世界の神話に出てくる神々は、最近ではゲームでもお馴染みかもしれませんね。ドイツの詩人による本書は、ゲルマンの民間信仰について描かれています。パレエ「ジゼル」の元になった踊り子の幽霊の伝説など、ヨーロッパの森から生まれたたくさんの精霊たちの世界をどうぞ。

図書館次長のオススメ
～戦争も異世界であってほしい～



©手塚プロダクション

『アドルフに告ぐ』(手塚治虫文庫全集)

手塚治虫著 講談社 大学図・書庫 726A/Te95t/70～72

公表されたらナチスの崩壊をも招く、ヒトラーの出生にまつわる機密文書が日本に渡った。この機密文書をめぐって、第二次大戦前後のヨーロッパと日本を背景に、アドルフという名前をもつ3人の男が織りなす物語。戦争がもたらす狂気に翻弄される人々を描きながらも、反戦への思いを語り人間愛を信じる手塚治虫の傑作。

歴史の異世界

『オランダ絵図』(ちくま文庫)

カレル・チャベック著、飯島周編訳
筑摩書房 大学図・開架 989.5A/C160

数々の童話や子犬を優しい目線で描いたダーシェンカンシリーズのチャベックは、作品そのままユーモアたっぷりに世界の様々な土地の旅行記も残しています。1931年のオランダの風景が色鮮やかに浮かぶ中、チャベックの後ろを歩いてみては？

『ドグラ・マグラ』『定本夢野久作全集4』

夢野久作著 国書刊行会
大学図・書庫 918.68A/Y97t/4

日本探偵小説三大奇書の1冊にして、超難解な小説。「読破した者は、必ず一度は精神に異常を來たす」とも言われる、まさに奇書。それでも独特のカタカナリズムが妙に読みやすく癖になります。「チャカポコチャカポコ」がなぜか耳から離れない…。

日本文学の異世界

『ダイナー』 平山夢明著 ポプラ社
[大学図書館所蔵なし]

殺し屋専用のダイナーでは日々、とんでもなく美味しい料理が提供されていますが、お客がお客だけにトラブルも頻発。激しい描写で衝撃展開が続くのに、気持ちよい読後感の不思議な小説。

異世界 読案内

生き物の異世界

ファンタジーの異世界

十二国記シリーズ
『月の影 影の海』『魔性の子』
『白銀の墟 玄の月』等

(いずれも新潮文庫刊)
小野不由美著 新潮社
大学図・開架 Bunko/067/



麒麟が王を選ぶ世界は、官僚は仙だったり子供は木に突ったり摩訶不思議。少女が突然に放り出された国、王と麒麟が忽然と消えた国、戦国時代の風来坊が治める大国、あなたはどの国から読みますか？



『ライオンと魔女』
(ナルニア国物語)

C.S.ルイス著、瀬田貞二訳 岩波書店
大学図・開架 933/679/1

子供の頃に読んだ方も多いのでは？古いお屋敷の衣装だんすの裏から雪のふる森の中へ。別世界で繰り広げられる、4きょうだいの冒険物語。おうち時間が長い今だからこそ、わくわくが蘇るかもしれません。



海野和男著 河出書房新社
大学図・開架 486A/U76m

『虫の目になってみた:たのしい昆虫行動学入門』

突然ですが、昆虫が苦手です。幼い頃は季節の虫取りに駆け回りましたが、いつの間にか苦手に。虫を感じる世界は人とは違って、でも世代交代のための見た目や生態の様々な手段はどこか面白い。これで目白の虫も怖くないかも？

『深海魚ってどんな魚:驚きの形態から生態、利用』

尼岡邦夫著 ブックマン社 大学図・開架 487A/A43s

まだまだ謎の多い、深海の世界。たくさんの図版やクイズを通して、深海の生物がどうこの世界を生き抜いているのか、とても分かりやすく説明してくれます。キンメダイなど身近な魚も深海魚だそう！

2023年4月、新東1号館（地下1階、地上14階建て）の2～11階に図書館ができます。今回は正面（北1号館側）からの外観イメージ図をお届けします。



わたしの
本棚

東洋文化研究所
植田 喜兵成智 助教

「洋書とはかぎらない外国書、
ハングル書と中国書に囲まれて」



著者と本棚

東洋史というと、中国史をイメージすることが多いでしょう。私の場合は朝鮮古代史を専門としており、特に朝鮮と中国の関係史を研究しています。そのため、朝鮮語の書籍、ハングルで書かれた専門書を集めるのは当然のこと、さらに中国語の専門書も必要です。そうなると、日本語、朝鮮語、中国語の書籍が混在する本棚ができあがります。できるだけテーマごとに並べてい

るのですが、日本語、ハングル、中国語の文字列のタイトルの並びと、雑然として見えるかもしれません。

少しこだわって収集しているのは、韓国各地の博物館の図録と、韓国の学位論文です。前者は、韓国に調査に行った際、入手したものです。後者は、韓国の学术界では、修士論文や博士論文を製本して、知人・友人に配る習慣があり、著者から直接あるいは間接的に受け取ったものです。これは私の交友関係の現れでもあります。蔵書は、俗に人となりを示すといいますが、私の行動範囲や人間関係が見えてくるので、「人格の分身」として整理するように気を付けています。



◀図録と学位論文の蔵書の一部

来ぶらり No.115 2021年 11月1日

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

発行責任者：鈴木亘教授 編集委員：藤本智美・遠山有紀

1階貸出・返却カウンター（内線 2397）：☎ 03-5992-1009（直通） 2階レファレンスカウンター（内線2395・2396）：☎ 03-5992-9249（直通）

「来ぶらり」のバックナンバーは（<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/about/publication.html>）で公開しています。